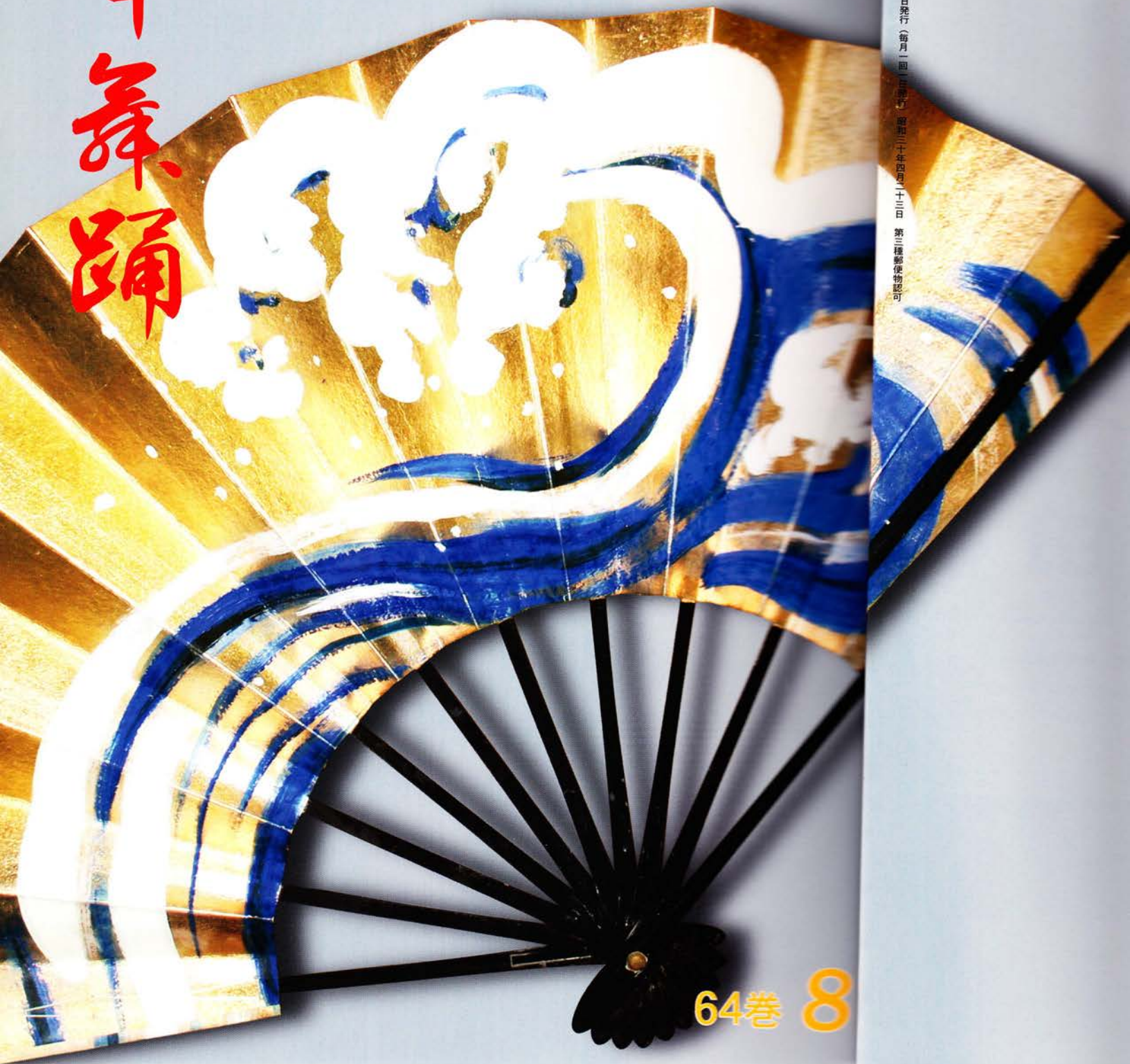


# 日本舞踊



日本舞踊・64巻 8月号（通巻764号）平成24年8月1日発行（毎月1回1日発行）昭和30年4月23日 第三種郵便物認可

64巻 8

カナダ・バンクーバーに日本の心を！

# Shamisen & Odori 公演

—コリーン・ランキ（藤間<sup>さゆう</sup>左由）の夢は果てなく



【松遁羽衣】漁夫 藤間章吾 天女 藤間左由 演奏 五世常磐津文字兵衛  
バンクーバーサイモン・フレイザー大学ウッドワーズ・ワールドアーツセンター所演  
・写真提供 Trevan Wong (15 頁下の舞台写真2枚とも)

さる5月12、13日、カナダバンクーバーのサイモン・フレイザー大学ウッドワーズ・ワールドアーツセンターにて「三味線と踊り」公演が、トモエアーツ主催で開催された。

トモエアーツのアーティスティック・ディレクターであるコリーン・ランキは現地で女優として活躍する一方、日本の伝統芸能を学ぶため、十数年前に初来日し、藤間由子に入門、藤間左由の名取を取得する。由子師の没後は藤間章吾のもと、更なる芸の研鑽を積むと共に、ホームタウン・バンクーバーに踊りの花を根付かせんと、一昨年に続き舞踊公演を催した。舞台公演その他で来日中のランキ氏と藤間章吾氏に、バンクーバー公演などについてお話を伺った。

—コリーンさんと日本舞踊の出会いからお願います。

コリーン 私はバンクーバーで舞台女優をしてきました。小さい頃からバレエやタップダンスを習い、大学でも演劇の勉強をしましたが、日本の歌舞伎、能狂言にも興味があり、一九九五年に英語教師として来日し、歌舞伎座や能楽堂に通いながら、リチャード・エマート先生という日本在住の喜多流の先生に能を教わりました。そんな時、市川猿之助（鏡猿翁）さんの「黒塚」を見て、何てすごい演劇的な踊りなんだ、日本舞踊を習いたい、と思いました。それでエマート先生が藤間由子先生という素敵な先生がいるから、と紹介してくださったのがご縁です。それから由子先生が亡くなるまで七年間、日本舞踊を教わり、左由という名前も頂きました。

章吾 由子先生は、藤間寿枝先生の御門下で、西形節子（藤間すみれ）先生、故林一枝先生といった先生方と同門です。二十年前に京都在住の先輩藤間勘祐悟さんと「棒しばり」を踊らせて頂いた時に由子先生が見に来て



日本舞踊の魅力を熱く語る藤間左由と  
コリン・ランキ

下さりまして、それで紹介して頂きましたのが御縁の始まりで、その後、今から十年位前かな、突然「ちょっと、あなたに話があるんだけど」とお電話があり銀座でお目にかかりました。「この人、日本に来る度に、あたしのところで日本舞踊やつてる面白い子なの、でもあたしももう年だから、あたしに何かあったらあなたの子お願いね」とおっしゃいました。そこに居たのがコリンだったんです。由子先生にはその後も可愛がって頂いて、先生のご一門の勉強会で荻江の「分身草摺引」をご一緒させて頂いたり、母（藤間章豊）と僕で主催していた平成十五年一月の「藤豊会」にも「由縁の月」でご出演して頂いたりしました。

——藤間由子先生、章吾先生に薫陶をうけたコリンさんは二〇一〇年、バンクーパーで一回目の日本舞踊公演を開催されましたね。

コリン 日本舞踊を始め、日本の文化を広くバンクーパーの人達に知ってもらうため、巴御前に因みトモエアーツという名のダンスシアターカンパニーを作り、二〇一〇年

四月に（Tokyo）「The World of Kabuki Dance」を開催しました。その時は「松」四季の山姥二屋敷娘「供奴」を上演しました。隈取や衣裳の華やかさなど、日系二世、三世の方も含め、大勢の方々が大変喜ばれました。

章吾 演目をコリンと一緒に決める時も、素踊り一つ、女役一つ、立役一つというふうを考えていきました。コリンは、ちゃんと支度して「四季の山姥」を踊りました。由子先生の影響か、好みがしぶいんです。僕は日本舞踊はゆったりとして優雅というイメージがあるので、と敢えて早間の「供奴」を踊らせて頂きました。

——今回の「三味線と踊り」という公演では、章吾先生は勿論常磐津文字兵衛先生も同行されましたね。

コリン 「The Music and Dance of Kabuki」というサブタイトルをつけ、序幕に常磐津文字兵衛先生の演奏で章吾先生が「松島」を踊られた後、私の「廓八景」、章吾先生の「将門」の物語と続き、文字兵衛先生が素浄瑠璃で「夕涼三人生酔」を語られ、最後は三人で「松廻羽衣」を上演しました。

章吾 公演前にはワークシヨップを行ったり、上演前に作品解説をしたりといろいろ工夫しました。今回の会場はお客様との距離が近かったので、笑うところ、シリアスな場面など、お客様の反応が踊っていてストレートに感じられました。また「松廻羽衣」は天女と漁夫という別世界のものの出合いが描かれている作品ですから、コリンがバンクーパーで日本舞踊を披露するにはテーマ的にも最適の演目だったと思います。

【廓八景】藤間左由



【将門より～戦物語～】藤間章吾



コリン 由子先生には踊りを通じて、他人を思いやる日本人の心を教えて頂いたように思います。古典舞踊だけでなく、例えば芭蕉の「奥の細道」など古典文学を題材に新作も創っていききたいですし、いつかはそんな作品を上演できる自分のスタジオが持てたらいいな、という大きな夢もあります。

【後記】日本の心をホームタウン・バンクーパーに、そしていつかは自身のスタジオを、と熱く語るコリンの瞳は凛々しく澄みきっていた。青い目を持つ、大和撫子の更なる研鑽と飛躍を大いに期待したい。